

JSA 神奈川支部通信

No. 9 September 2024 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 0280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

この号の目次

- | | |
|--------------------------------------|-------------|
| ◆ 第 25 回総合学術研究集会：平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために | 実行委員会 |
| ◆ 日本体育大学法学研究室主催憲法市民講座のお知らせ | 清水雅彦 |
| ◆ 安保法制違憲訴訟全国ネットワークと総がかり行動実行委員会が市民集会 | 後藤仁敏 |
| ◆ ノースドック米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会第 2 回総会の報告 | 後藤仁敏 |
| ◆ 「核の抑止力」は戦争を抑止する力になるのか？ | 神奈川民間懇 北山宏之 |
| ◆ 真夏の海岸を彩るハマオモトの花 | 浜田盛久 |

第 25 回総合学術研究集会：平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために

第25回総合学習研究集会実行委員会

「戦争する日本、への動きをみんなで阻止し、第25回総合学術研究集会を成功させましょう。日本科学者会議会員のみならず、市民のみならず。相次ぐ「戦争する国家、体制づくりや、そのなかで進展する高等教育施策・学術研究体制の劣悪化や特定方向への誘導のなかで、あるべき方向性を見据えつつ、日々の生活に、研究活動に、勉学に大きな困難を抱えつつ頑張っておられることに、心からの連帯と敬意を申し上げます。

この間、経済安保情報保護法の国会での成立や、軍事力の南西諸島配備の動きのなかで自衛隊をアメリカ軍の指揮下に置く日米共同声明が発せられるなど、日本が「戦争する国家、へとひた走るなかで、あらためて戦争と平和の問題が、より危機感をもって受けとめられてきています。

第25回総合学術研究集会は、すでに1stサーキュラーでも提起しましたように、「平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために—市民として科学者として今、私たちにできること—」をテーマに開催されます。そしてこのテーマのもとで、現在、全体企画や各分科会の準備が進められ、本サーキュラーにも掲載したように、さまざまな角度や視点から議論・交流を深め、市民各層と各専門分野の研究者の共同を広げようと呼びかけたところ、26件の分科会設置申込みがありました。いずれも非常に有意義な内容です。

25総学の準備は、これからいよいよ、各分科会設置責任者のもとで、それぞれのテーマおよび内容について、会員・報告者のみなさんが創意工夫をこらしてつくっていく作業に入ります。全国の全支部、全会員のみならずには、あらためて積極的なご協力をお願いしたいと思います。

前回の24総学と同様に、25総学もオンライン形式で実施されます。まだまだZoom等に不慣れな人もおられると思います。実行委員会事務局は、総出でそのサポートをさせていただきます。どうかご安心して、ご参加いただきますようお願い申し上げます。また、参加費も無料としました。ぜひ会員外の方にも宣伝を広げ、従来の枠をこえた多くの方々とともに参加し、25 総学を成功させましょう。

第25回総合学術研究集会実行委員会 委員長 松田正久（愛知支部）

全体企画：11月23日（土）開会式・基調講演・全体集会①

12月8日（日）全体集会②・閉会式

【全体集会のテーマ】

科学者運動としての学際研究と市民科学—社会課題の解決とJSAの活性化の同時達成へ—

講演1：「JSA学際研究・市民科学発展プログラム」の可能性

講演2：これまでのJSAにおける市民との連携の歴史

講演3：市民科学の課題—科学コミュニケーションの視点から

総合討論：これからのJSAに相応しい学際研究・市民科学の進め方とは？

基調講演と全体集会の各講演者および、日程は検討中

分科会

A 戦争のない平和な時代を拓く

【A1】平和問題分科会 設置責任者：亀山統一（平和問題研究委員会）、大倉信彦（沖縄支部）

【A2】九条改憲の動向の多角的検討 設置責任者：浜田盛久（九条科学者の会）

【A3】米日のグローバルパートナーシップの構築と世界の戦争に抗する平和の理論と運動を語る
設置責任者：金子 勝、中野貞彦（東京支部）

B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

【B1】PFAS（有機フッ素化合物）汚染を考える 設置責任者：畑 明郎（滋賀支部）

【B2】気候危機に立ち向かう—自然エネルギーと省エネの社会に向けて 設置責任者：歌川 学（産業技術総合研究所）、佐川清隆（東京大学）、河野 仁（大阪支部）

【B3】脱原発への課題と展望 設置責任者：山本雅彦（原研研委員長、福井支部）、山本富士夫（原研研副委員長、福井支部）

【B4】地域社会から考える能登半島地震復興 設置責任者：小野 一（福井支部）

【B5】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流（part 8） 設置責任者：長田好弘・松永光司（東京支部武蔵野通研分会）、橋本良仁（東京支部高尾分会）

【B6】風力発電の課題を考える。 設置責任者：草島進一（山形支部）

C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

【C1】群馬県に居住する外国人が抱える諸問題—多文化共生社会・移民社会の実現可能性 設置責任者：藤井正希（群馬大学）、永田 瞬（高崎経済大学）

【C2】新型コロナウイルス感染症の現状と今後に向けての課題 設置責任者：椎名貴彦（岐阜大学、新型コロナウイルス感染症研究委員会）

【C3】全国一律の最低賃金1500円をめざして 設置責任者：黒田兼一・米田貢（東京支部）

【C4】高齢者福祉の現状とこれから—介護福祉学への展望 設置責任者：藤本文朗（京都支部）

D 科学・技術の現状批判と課題

【D1】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part16 設置責任者：久志本俊弘（民間技術者研究者問題委員会・大阪支部）

【D2】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 17— 設置責任者：長田好弘・松永光司（東京支部武蔵野通研分会）

【D3】自然科学の進展を俯瞰する III 設置責任者：青木和光（東京支部）

E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

【E1】いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える 設置責任者：原田英美子（滋賀支部、滋賀県立大学）、丹生淳郷（埼玉支部）

【E2】高等教育政策の現状分析とその改革の方向性 設置責任者：石井 潔（静岡支部）

【E3】高等教育「無償化」の現在地—誰もが安心して学び続けられる社会に 設置責任者：河かおる・杉浦由香里（滋賀支部）

F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

【F 1】フェミニスト・エスニック・スタディーズと DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) : 平和に必須の多様性と公平性と包摂 設置責任者: 鄭 幸子 (岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム、JSA 女性委員会)

【F 2】不登校・社会的ひきこもり 設置責任者: 伊田勝憲・近藤真理子 (京都支部)

【F 3】学習権を問う～様々な学びからの検討 設置責任者: 近藤真理子 (京都支部)

G 市民社会その他

【G 1】市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望 設置責任者: 『日本の科学者』第 60 期編集委員長

【G 2】二次元から「世相」をつむぐ 設置責任者: 西田喜一 (京都支部)

【G 3】転換期の主体としての地域、地域住民を考える～その自由な学習と個性、主体性のあり方を問う 設置責任者: 渡辺顕治 (個人会員)、亀山孝二 (東京支部/個人会員)

【G 4】アメリカの現状と今後を考える 設置責任者: 本田浩邦 (獨協大学)

予稿集は PDF で発行します ○予稿集は PDF で発行し、JSA ホームページの 25 総学ページにアップします (11 月 1 日を予定)。○参加者はそれぞれ予稿集 PDF 版をダウンロードして入手ください。

参加費は無料ですが、募金にご協力を! オンライン開催とする 25 総学では、現地開催に要する様々な費用を削減できるため、参加費は無料とします。通信費、印刷・宣伝費等は、JSA 全国の 25 総学予算とみなさまからの募金でまかなう予定です。別途お願いする募金にご協力ください。

25 総学 日程概要 (案) (企画の都合で一部変更となる場合もあります)

月/日(曜日)	9:30~12:00	13:00~15:30	15:45~18:15	18:30~20:00
11/23(土)		開会式・基調講演・全体集会①		予備 1
11/24(日)	分科会 1	分科会 2	分科会 3	予備 2
11/30(土)	分科会 4	分科会 5	分科会 6	予備 3
12/1(日)	分科会 7	分科会 8	分科会 9	予備 4
12/7(土)	分科会 10	分科会 11	分科会 12	予備 5
12/8(日)	分科会 13	全体集会②・閉会式		

注: 各分科会の開催日時は、講演者やコーディネーターの希望に応じて日程調整します。1 枠につき、同時に 2 分科会開催可能です。

今後のスケジュール:

8 月 31 日 分科会設置責任者から実行委員会への分科会プログラム提出期限

8 月 31 日 発表者から分科会設置責任者への予稿原稿提出期限

9 月 30 日 分科会設置責任者から実行委員会への予稿原稿提出期限

10 月 10 日 3rd サーキュラー発行 (プログラム発表、参加登録呼びかけ)

10 月 13 日~26 日 分科会設置責任者対象の Zoom 体験会 (希望者)

10 月 31 日 予稿集 PDF 版のダウンロード方法を参加登録者に連絡

11 月 1 日 予稿集 PDF 版のアップロード

11 月 1 日~15 日 分科会単位で予行演習、全体会予行演習

11 月 23 日~12 月 8 日 25 総学

憲法に関心はありますか？

中学・高校の社会科・公民科で学び、国の基本法として誰もが「よく知っている」はずの日本国憲法。しかし、前文や第9条の条文、キーワードを暗記していることが「よく知っている」ことでしょうか？ どのような権利・自由が憲法で保障されているのか「よく知っている」としても、現実社会の中で何が憲法問題であるかに気づき、実際に自ら行使しないと意味がないのではないのでしょうか？

大学の憲法の講義を「体験」してみませんか？

日本体育大学は私立大学ですが、税金をもとにした国からの私学助成も受けとっています。また、一地域に存在する大学として、地域で理解されなければ、地域と共に発展していくことはできません。逆に市民などは納税者として、また、地域住民として、機会があれば地域に存在する大学をもっと利用してもいいはずです。そこで今回、市民の方々に大学における憲法の講義を無料で「体験」していただきたいと考えました。「体験」といっても、憲法の知識を自分のものにし、活用できるようにしてほしいと思っています。日体大など教養・教職系の憲法の講義は半期15回、法学部の憲法の講義は2年間60回もありますが、この講座では大事な部分を8回分に圧縮してお届けしたいと思います。

こんな方はぜひご参加を！

中学・高校で憲法を学んだけれどももっと学びたい方、大学などで学んだけれど改めて・久しぶりに学びたい方、将来公務員（公務員には憲法尊重擁護義務があります）や幼小中高校教員（憲法の単位を取得しないと教員免許を取得できません）を目指そうと考えている高校生・大学生、現役の幼小中高校教員など、憲法に興味のある方ならどなたでも受講を歓迎します。もちろん、全講座受講が望ましいですが、参加可能な回だけの受講でもOKです。どうぞどなたでもお気軽にご参加下さい。

【期間】 9月21日（土）～10月26日（土）全4日1日2講

【時間】 毎回9時30分～12時30分

[1講目] 9時30分～10時55分（85分） [2講目] 11時5分～12時30分（85分）

（2講目終了後、時間のある方と学食で食事をしながら質問などを受けます）

【場所】 日本体育大学横浜・健志台キャンパス百年記念館（1号館）

9月21・28日・10月19日は3階1301教室、10月26日は4階1402教室

東急田園都市線青葉台駅より東急バス日体大行約15分（車での入構はできません。）

【講師】 清水雅彦（日本体育大学体育学部教授・憲法学）

【内容】 9月21日（土）[1講目] 憲法とは何か、人権の基本原則と法の下での平等

[2講目] 自由権①～人身の自由、幸福追求権

9月28日（土）[3講目] 自由権②～精神的自由（思想・信教・表現・学問の自由）

[4講目] 社会権～生存権、教育を受ける権利、労働者の権利

10月19日（土）[5講目] 天皇、平和主義

[6講目] 国会、内閣、財政

10月26日（土）[7講目] 司法

[8講目] 地方自治、憲法の保障、憲法の改正

【費用】 無料（事前申込不要。当日、直接会場までお越し下さい。）

【参考文献】 下記拙著『憲法入門』（大月書店）（ただし、会場での販売はしません。）

【講師プロフィール】

1966年兵庫県生まれ。神奈川県立茅ヶ崎丘陵高校卒業、明治大学法学部卒業、明治大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。札幌学院大学法学部教授などを経て、現職。専門は憲法学。研究テーマは平和主義、監視社会論。九条の会世話人。最近の著書（単著）に、『憲法改正と戦争 52の論点』（高文研、2023年）、『憲法入門 法・歴史・社会をつなぐ』（大月書店、2024年）など。

【お問い合わせ先】

日本体育大学法学研究室 TEL：045-963-7941（直通）、E-mail：shimizumasahiko@nittai.ac.jp

安保法制違憲訴訟全国ネットワークと総がかり行動実行委員会が市民集会

後藤仁敏

2024年7月10日、2016年から7699名の原告と1685名の弁護士が、全国22の裁判所で25の裁判を提訴した安保法制違憲訴訟の原告市民、弁護士、憲法学者、国会議員ら300人以上が集まって市民集会が参議院議員会館講堂で開催されました。主催は、安保法制違憲訴訟全国ネットワークと戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会でした。



図1 訴える岸牧子さん

最初に、染裕之さんが開会挨拶し、基調講演として伊藤真弁護士が「解釈改憲後の10年を検証する—安保法制違憲訴訟が暴いた戦争法の実態、そしてこの国のあるべき未来」について、

「裁判官は独立した法律家ではなく内閣法制局以上に罪深い。敗訴判決は運動の負けではない。忘れず、許さず、戦争させない、国民運動と連携して訴え続けよう」と呼びかけました。

憲法学者の青井未帆さんからは「立憲主義に立ち、人権と平和を追求するため、今後も共にたたかきましょう」とのメッセージが寄せられました。清水雅彦氏は「閣議決定と『安保法制』強行という国会無視の手法の問題点」について話しました。



図2 挨拶する山添拓さん

運動の現場からは、総がかり行動実行委員会の小田川義和さん、弁護士の大江京子さん、ピース神奈川10000人アクションの岸牧子さんが報告しました。岸さんはこの日が締め切りの意見広告への参加を訴え、96名の賛同と6万円以上のカンパを集めました（図1）。



図3 行動提起する岡田尚さん

政党からは、立憲民主党の福山哲郎さんと小西洋之さん、日本共産党の山添拓さん、社会民主党の福島瑞穂さんが挨拶しました。山添さんは「平和主義の原則がことごとく壊されているが、憲法との整合性について政府は一切説明していない。戦争の準備でなく平和の外交こそが必要だ」と話しました（図2）。

全国から参加した原告・弁護団としては、女の会、道東、宮崎、長崎から報告されました。

最後に、岡田尚弁護士が「平和を希求するすべての人々がこの地球上から戦争をなくすために闘う」とのアピールが提案され、大きな拍手で確認されました（図3）。車イスの寺井一弘弁護士から閉会挨拶がありました。

なお、私は別の集会があつて参加できなかったが、この集会に先立って、この日の午前10時から最高裁判所への抗議行動があり、約50名が参加したとの報告がありました。

ノースドック米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会第2回総会の報告

後藤仁敏

2024年7月13日、横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会が、第2回総会を開催し、46名の関係者が集まりました。

はじめに、共同代表の私が「1年間を総括し、全面返還を実現するまで今後の取り組みを議論し

よう」と開会挨拶しました。

自治労連の政村修書記長は「いま、なぜ、地方自治法改定なのか」と題して次のように話しました（図1）。戦争の甚大な犠牲の上に、憲法92条に地方自治の本旨が明記され、地方自治法で国と地方の関係が「上下・主従」から「対等・協力」へと変わった。今回の法改定は、緊急事態の特例として各大臣に必要な指示を地方自治体に出すことができるとした。これは戦争できる国の体制に地方自治体を取り込むためのもので、自民党改憲草案の実行で、事実上の改憲だ。今後、この指示権を発動させない世論を広げよう。

次いで、飛田久男事務局長（図2）が、この間の経過を報告し、衆参議長への請願署名を年末までに10万筆をめざすなどの取り組みを提起し、住谷和典さんが財務報告と予算案を提案しました。これらの報告と提案は大きな拍手で採択されました。

最後に、県平和委員会の菅沼幹夫さんが「ノースドックへの『揚陸艇部隊』配備と戦争する国づくり』について、以下のように講演しました（図3）。ノースドックの揚陸艇部隊は、海兵沿岸連隊とセットで、兵士・先頭車・ミサイル・弾薬を最前線に送り届けることができる輸送部隊だ。これまでは随時配備であったのが、常時配備に変わり、ノースドックは中継基地から拠点基地になった。中国の弾道ミサイル原子力潜水艦への作戦拠点となり、米空軍の横田基地へのオスプレイの離発着が常態化している。学び、知らせ、声と声をつなげ、運動を広げよう。

また、県民署名呼びかけ人代表の山根徹也市大教授（図4）が連帯挨拶し、森卓爾共同代表（図5）がまとめの挨拶をしました。

なお、私の開会挨拶は以下のとおりです。

皆さん、横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会の総会にご参加くださり、まことにありがとうございます。横浜では山下ふ頭へのIRカジノ誘致反対のたたかいが2014年から取り組み、8年間におよぶ永く苦しいたたかいでしたが、最後の2年間は大きく闘いが盛り上がり、2021年の市長選でカジノ反対の市長が勝利し、みごとに撤回することができました。

その喜びもつかの間、昨年1月11日の日米安全保障協議会、いわゆるツープラスツーで瑞穂ふ頭のノースドックに米軍揚陸艇部隊が配備されることが発表されました。この部隊は沖縄読谷村に司令部がある在日米軍第10支援群の指揮下に置かれたことを見ても、台湾有事に備えた米国の中国封じ込め戦略に参加する部隊で、南西諸島を戦場にする米国海兵隊の作戦を担うものです。横浜港が米軍や自衛隊の出撃拠点となるのです。

カジノは私たちからお金を奪うだけですが、出撃基地は敵の攻撃の対象となり、私たちの命を奪います。私たちはこれは許せないと、33団体が結集して、昨年7月14日に連絡会結成総会を開き、活動を始めました。昨年は、12人の学者・弁護士が呼びかけた米



図1 報告する政村修さん



図2 報告する飛田久男さん



図3 講演する菅沼幹夫さん



図4 挨拶する山根徹也さん



図5 挨拶する森卓爾さん

軍部隊配備の撤回とノースドックの早期全面返還をもとめる県民署名に取り組み、昨年末には6万の署名を山中市長に提出しました。

私どもの6万の署名は無視され、今年2月8日には40名の部隊が配備されて運用が開始され、ゲート前で200人以上の市民が反対の声をあげました。その後も、新しい揚陸艇が配備されるなど、年内には280名の部隊が揃う予定で、進められています。

じつは、4月30日に市民のための市政を進める会世話人と山中市長の会食会があったのですが、その際に、私は「ノースドックへの揚陸艇部隊の配備で、オスプレイも搬出入され、港湾と市民への危険が高まっており、市長は港湾管理者として市民と港の安全に努めてほしい」と話しました。その効果かどうかは分かりませんが、6月18日に山中市長は防衛省の三宅伸吾政務官を訪ね、ノースドックの早期返還を要望しました。言うべきことはしっかり言うべきだと感じました。

さて、今日はまず県平和委員会の菅沼幹夫さんの基調講演「ノースドックへの揚陸艇部隊配備と戦争国家づくり」があり、先に改悪された地方自治法の狙いについて自治労連書記長の政村修さんにお話いただきます。質疑応答のあと、飛田事務局長から活動報告と今後の取り組みについての提案があります。

どうか最後まで、活発にご討論くださるようお願いいたします。米軍揚陸艇部隊の配備撤回とノースドックの全面返還をかならず実現し、平和で安全な横浜港を取り戻しましょう。

「核の抑止力」は戦争を抑止する力になるのか？

神奈川民間懇 北山宏之

「ヒロシマ・ナガサキに原爆が投下されて、日本は降伏し、世界は平和になりました」何となくそう思いませんか？ 本当にアメリカのトルーマン大統領は平和のために原爆を投下したのでしょうか？ 天皇や日本政府は原爆を投下されたのでポツダム宣言を受諾したのでしょうか？

もしそれが本当だったら、原爆は世界の平和のために必要な兵器だと言えそうです。核の抑止力の神話が生まれ、それを何となく国民も受け入れているのは、そんな神話がマスコミや学校教育でおこなわれてきたからではないでしょうか。

トルーマンが原爆投下を8月上旬の早い時期にと急いだのは、ソ連が日本に参戦する前になんとしても原爆を使いたかったからです。それは次の戦争に備えてソ連を威嚇するためでした。さらに核開発をするためには人体実験と都市破壊の実験データが必要だったからです。ソ連のスターリンはトルーマンの狙いを見抜き、ソ連も核開発を急ぎます。こうして戦後の核開発競争が始まります。これが世界の歴史学の到達点です。」(以上は9条の会いせはらニュース8月号より抜粋)

東京新聞8月7日の「核はわたしたちを守るのか？」の記事に注目した。学生を対象にした意識調査の結果が紹介されていた。日本は核兵器禁止条約に参加すべきかという問いに、8割近くが賛同、しかし同時に日本が米国の「核の傘」に入っていることを容認する人が8割を超え、核兵器の保有が戦争の抑止力につながることに6割が賛同した。このような矛盾と葛藤は、学生だけでなく多くの国民が意識的にせよ無意識的にせよ共通して抱えているものではないか、と指摘されていた。

先に述べた、核の使用が戦争の防止につながらず、核開発競争の始まりとなった歴史に学ぶ必要性を痛感した。

さらにウクライナ戦争が起こってしまったことに対し、核抑止が戦争抑止につながらなかった現実の分析例として、世界2022年7月号の「抑止とその限界」(藤原帰一 国際政治学)の内容を紹介

介する。

ウクライナ戦争は、核を含む抑止力が破れたことによる結果なのに、日本ではなぜか、抑止力を強めるべきだ、しかも中国に対して、という奇妙な光景になっている。

抑止戦略とは何か、抑止には限界があり、すべての戦争を抑止することはできない、なぜ抑止は破れたのか、などをめぐってそのエッセンスを以下にまとめてみた。

今回の戦争では核抑止は破れなかった。核抑止は核兵器実戦使用の恐怖が支える均衡にほかならない。問題は、核兵器によって通常兵器を用いた軍事行動を抑止することができるのかという点だ。もし核抑止が十分に安定し、核保有国がお互いに核兵器を用いて戦うことが困難になったと言える状況が生まれたならば、相手が核を使用する可能性を恐れることなく通常兵器による軍事的な侵略に訴えてしまう危険が生まれる。

核抑止の安定が通常兵器による力の均衡を不安定にしてしまうという、安定・不安定パラドックスと呼ばれる状況である。ウクライナ侵攻後、ロシアの指導者は、ロシアは核による反撃を辞さないという、核恐喝の発言を行なった。自国の核兵器を盾に使う相手の核攻撃を阻み、NATOの直接介入も阻止するという戦略をここに見ることができ、安定・不安定パラドックスを戦争の手段として使っているといつてよい。

結局、通常兵器による抑止は核抑止よりも信頼性が低く、核抑止が保たれていたとしてもそれだけでは戦争を阻止できなかったことは、決して驚くべき結果ではない。

結論として、今必要なのは、抑止への依存ではなく抑止の限界を見据えることであって、抑止の破綻を前に中国への抑止力強化を求めることに意味はない、としている。

真夏の海岸を彩るハマオモトの花

浜田盛久

関東以西の真夏の海岸では、ハマオモト（ハマユウ）というヒガンバナ科の植物が美しい花を咲かせています（図1）。ハマオモトは太い茎の先端に十数個の白い花を傘状につけており、先端部で六分裂して反り返って咲く様子は白いヒガンバナにそっくりです。花は芳香を放ち、特に日没後、甘い香りを漂わせます。ハマオモト（浜万年青）の名前は、光沢のある葉が一年中青々としてオモトに似ていることに由来します。

ハマオモトは、原産地である東南アジアやインドから種子が海流によって運ばれて海岸に打ち上げられることにより、その分布域を広げてきました。分布の北限は年平均気温15℃の等温線及び年最低気温-3.5℃の等温線とほぼ一致します。とくに後者の等温線に良く一致し「ハマオモト線」とも呼ばれています（図2）。神奈川県内では、横須賀市佐島の天神島、笠島およびその周辺が自生北限となっています。この「ハマオモト線」は、単にハマオモトの分布の自生北限を示すだけでなく、ナチシダ、イヌガシなどの温暖帯から亜熱帯地域にかけて生育する植物の分布境界線にもなっており、植物学的に重要です。

ハマオモトは、夏の海岸を彩る涼しげな花として古くから人々に親しまれてきました。例えば、万葉集には柿本人麻呂が熊野地方で詠んだ歌一首が掲載されています。



図1 横須賀市佐島の天神島（太平洋側の自生北限地）のハマオモト

み熊野の浦の浜木綿百重なす心は思えど直に遭わぬかも

この歌の意味は、「葉が幾重にも重なる熊野海岸のハマオモトのように、あなたのことを深く深く思っているのに、直接会えないことが残念でならない」です。熊野地方は現在でもハマオモトの自生地として知られています。

ハマオモトを「県・市・町・村の花」に制定している自治体は、私が調べた限りでは全国に16あり、「ハマオモト線」の線上、あるいは「ハマオモト線」より南側に位置しています(図2)。神奈川県内では、横須賀市、三浦市および真鶴町がハマオモトを自治体の花に指定しています。これらの自治体では、海岸にハマオモトの大群落があり、ハマオモトが各自治体のシンボルとしての役割を果たしています。私の故郷である山口県下関市の花もハマオモトであり、私の勤務先がある横須賀市の花もハマオモトです。すなわち、ハマオモトは私にとって、現在地と故郷をつなぐ思い入れのある花です。

神奈川県横須賀市佐島の天神島及び笠島、愛媛県宇和島市の沖の島、静岡県下田市の田牛海岸、福岡県芦屋町の夏井ヶ浜のハマオモト群生地は、県の天然記念物に指定されています。さらに、下関市豊北町の角島、佐賀県唐津市の神集島などのように市町村の天然記念物に指定されているハマオモト群生地も多くあり、これらの区域ではハマオモトが手厚く保護されています。しかし、全国的に見ると、海岸の埋め立てや護岸工事に伴ってハマオモトの生息域は減少傾向にあり、海岸の一層の環境保全が必要とされています。

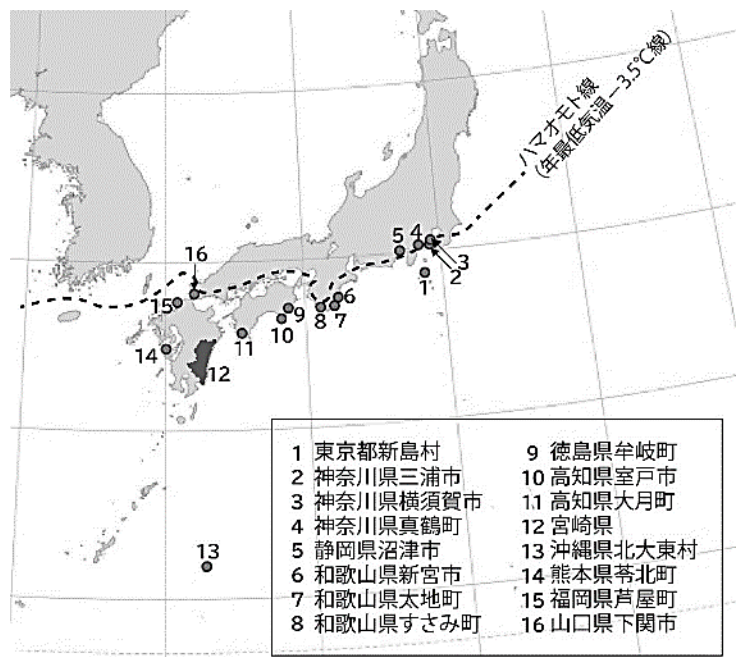


図2 年最低気温-3.5℃線（ハマオモト線）とハマオモトを「県・市・町・村の花」に指定している自治体

行事案内

- ☆8月23日(金)～25日(日) 10:00～18:00 (最終日は17時まで) **原爆と人間展** 会場：横浜駅東口そごう地下2階正面入り口前 入場無料 被爆者の証言映像の放映と質問タイム(予定) 主催：同展運営委員会 問合せ：045-471-1031 (栗城さん)
- ☆8月23日(金) 12:30～15:00 **第6回懐かしの昭和歌謡を歌おう♪** 会場：クラジャ(カフェ) (小田急線藤沢本町駅徒歩7分) 会費1500円(ランチ・ドリンク付) 定員25人 主催：年金者組合藤沢支部 問合せ：070-1315-3501 (新井さん)
- ☆8月24日(土) 9:30～17:00 **第58回神奈川夏の教育研究大会** 会場：湘南学園小学校(小田急線鵠沼海岸駅徒歩7分) 記念講演：神代健彦(京都教育大准教授)「教育って難しい、だから面白い」 テーマ別分科会 一般分科会 教職員1500円 一般・学生500円 主催：県民間教育研究団体協議会 問合せ：090-6037-7775 (持田さん)
- ☆8月24日(土) 13:30～25日(日) 15:30～ **第39回原子力発電問題全国シンポジウム2024 敦賀** テーマ：原発のない社会づくりのための検証と展望 主催：日本科学者会議(JSA)原子力問題研究委員会、主管：JSA福井支部 第1日 8月24日(土) 午後13:30～原発サイト見学 そ

の夜：交流会 18:00～（ニューサンピア敦賀にて） 第2日 8月25日（日）9:30～15:30 会場：ニューサンピア敦賀 参加方法：参加の申込みフォームに記入の上、返信していただくか、添付のWord書類に記載の上、メールなどでお送りいただければ幸いです。Zoomで参加されるみなさんは、下記から登録をお願いします。<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZUkc-2spjIoGdJFFRjL2JU45h5FR21ETCI0> YouTubeで視聴されるみなさんは、「第39回原子力発電問題全国シンポジウム2024」で検索してください。

☆8月24日（土）15:00～16:30 **立憲民主党神奈川選挙区参議院議員 水野もと子さん**を囲んで **地球と宇宙をつなぐサイバーシステムについて語り合おう！** 会場：鎌倉生涯学習センター音楽室（2階・定員50名）資料代（会場費含む）300円 主催：湘南護憲市民の会・鎌倉 連絡先 080-5035-7168 事前申込み不要。当日会場に直接お越しください。新型コロナウイルス流行の問題があり、できるだけマスクの着用をお願いします。

☆8月25日（日）16:00～17:00 **マイナ保険証を強制するな！ マイナンバーカードなんていらない！ 月イチ街頭宣伝アクション in 新宿駅南口** 場所：東京・JR山手線新宿駅南口前 主催：共通番号いらぬネット（連絡先：080-5052-0270）

☆8月27日（火）～9月1日（日）10:00～19:00（初日14時開場、最終日17時終了） **第22回 ノー・ウォー横浜展** 会場：アートガーデンかわさき（川崎駅前タワーリパーク3階） 共催：ノー・ウォー美術家の集い横浜・美術・九条の会 問合せ：090-1263-0843（事務局・藤井）

☆8月28日（水）17:30～ **シンポジウム「日本学術会議の危機を問う」** 会場：弁護士会館とオンラインのハイブリッドで開催 1. 報告「日本学術会議問題についての日本弁護士連合会の取組」野呂圭（日本弁護士連合会副会長）、2. 講演1「科学史研究者から見た学術会議のこれからの在り方」隠岐さや香（東京大学大学院教育学研究科・教育学部教授）、3. 講演2「任命拒否から法人化論へ—何が問題か？」小森田秋夫（東京大学名誉教授、神奈川大学名誉教授）、4. パネルディスカッション～学術会議の危機をどう打開するか パネリスト：隠岐さや香教授、小森田秋夫名誉教授、岡田正則早稲田大学法学学術院教授（任命拒否当事者）、小澤隆一東京慈恵会医科大学名誉教授（任命拒否当事者）、加藤陽子東京大学大学院人文社会系研究科教授（任命拒否当事者）、松宮孝明立命館大学大学院法務研究科教授（任命拒否当事者）、そのほか、任命拒否当事者である芦名定道（関西学院大学神学部教授）、宇野重規（東京大学社会科学研究所教授）によるビデオメッセージを予定。詳しいプログラムは下記をご覧ください。https://www.nichibenren.or.jp/event/year/2024/240828.html?fbclid=IwY2xjawEhlwZleHRuA2FlbQIxMQABhbE3f5WHU2_opa0Y1NuR3UghfQ0j2oVCC81whG0Fn531USA9z5qGcsEWA_aem_ScYFkREZGIEVgLL7jLqGvA 上記サイトからの事前申し込み（8月23日まで）が必要です。主催：日本弁護士連合会

☆8月29日（木）15:00～18:00 『**ヨコハマ市民自治を考える会**』の定例会 会場：かながわ県民センター702号室（横浜駅西口徒歩5分）市民自治に関心のある方は是非お越し下さい。問合せ：Eメール kura335200@star.ocn.ne.jp 参加費300円 倉田謙

☆8月29日（木）18:00～ **憲法改悪を許さない 総がかり行動 署名街頭宣伝** 場所：新宿駅 東南口 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクション

☆8月31日（土）13:30～ **神奈川県平和委員会70周年記念シンポジウム「解釈改憲から10年・神奈川の平和運動を問う」** 会場：横浜市従会館3階第1～3会議室（JR桜木町駅徒歩12分）第4会議室で展示 メイン講師：布施祐仁さん（ジャーナリスト） パネルディスカッション ①神奈川の基地と運動、②基地闘争と地方自治（沖縄連帯と神奈川運動）、③神奈川の平和運動と共闘、④ジェンダー平等と平和運動 資料代700円 主催：神奈川県平和委員会（045-231-

0103)

- ☆8月31日(土) 14:00～ **関東大震災朝鮮人・中国人虐殺 101 年犠牲者追悼大会** 会場：文京区民センター3A(地下鉄春日駅A2 出口徒歩2分、丸ノ内線後楽園駅4B 出口徒歩5分) 参加費 1000 円 主催：実行委員会 連絡先：関東大震災中国人受難者を追悼する会 (080-1142-2515)
- ☆8月31日(土) 14:00～16:00 **8.31 集会 どうなる保険証 どうする私たち** 会場：渋谷区立勤労福祉会館2階第1洋室(東京都渋谷区神南1-19-8、JR山手線・埼京線渋谷駅ハチ公口徒歩7分、東京メトロ半蔵門線・副都心線渋谷駅A6 出口徒歩5分) 発言：原田富弘さん(共通番号いらないネット)、吉田章さん(医師、東京保険医協会副会長)、伊藤とし子さん(佐倉市議会議員、市民ネットワーク千葉県)、木村潮人さん(東京土建一般労働組合書記次長) 資料代 500 円 定員：90 名 要事前申込 申込先：event ♪bango-iranai.net(「音符」を半角の「アットマーク」に代えてください) 集会はどなたでも参加できます。新型コロナウイルス感染防止のためマスクの着用をお願いします。主催：共通番号いらないネット(共通番号・カードの廃止をめざす市民連絡会) <http://www.bango-iranai.net/> 連絡先：080-5052-0270(担当：宮崎)
- ☆9月1日(日) ①10:00～、②14:00～ **映画「雪道」上映** 会場：藤沢市民会館小ホール(JR藤沢駅徒歩10分) チケット代 1000 円 主催：実行委員会 問合せ：090-5203-3220(折原さん)
- ☆9月1日(日) 13:30～ **市民のための横浜市政を進めるシンポジウム** 会場：横浜市開港記念会館1号室(みなとみらい線日本大通り駅徒歩2分) 資料代 800 円 講演：内田聖子さん(岸本聡子事務所事務局長)「岸本聡子杉並区長の誕生と住民運動の継続・発展をどう進めてきたか」シンポジウム：山中市政の3年間を振り返り、住民自治の発展を目指して」シンポジスト 内田聖子、岡田尚ほか 主催：市民のための横浜市政を進める会(080-5174-1471)
- ☆9月6日(金) 13:30～ **神奈川革新懇夏の交流集会** 会場：川崎市総合自治会館ホール(武蔵小杉駅徒歩3分) 全体集会：情勢と問題提起 分散会 8 会場：全員発言 参加費 500 円 申込み・主催：神奈川革新懇(080-5931-8179)
- ☆9月6日(金) 18:30～20:30 **女性議員数 UP をめざす和田×佐々木トークセッション～パリデ法って知ってる？** 会場：かながわ県民センター3階301会議室(横浜駅西口徒歩5分) 対談者：和田静香さん、佐々木ナオミさん 主催：パリデ YOKOHAMA(伊形順子、佐藤弘子、田崎政子、遠藤はるひ、土志田栄子、長谷幸子、吉沢てい子、吉田ちなみ)
- ☆9月15日(日) 13:00～17:00 **第19回シンポジウム：歴史教科書・いままでとこれから 中学歴史教科書問題と高校歴史教育の課題** 会場：早稲田大学早稲田キャンパス7号館307教室(地下鉄早稲田駅徒歩5分、オンライン併用) 参加費：一般 1000 円、学生・院生 500 円 報告者：糀谷陽子、高野晃多、渡邊綾花、井ノ口貴史、風間洋 主催：歴史学研究会、子どもと教科書全国ネット21、ほか 連絡先：歴史教育者協議会(090-8100-1038)
- ☆9月16日(月・祝) 13:00～15:00 **さよなら原発全国集会命をつなぐ地球環境を** 場所：代々木公園(JR山手線原宿駅) 13時 オープニングライブ トークライブ 15時 パレード(渋谷方面、原宿方面) 主催：実行委員会、「さよなら」原発一千万署名市民の会 問合せ：03-5289-8224
- ☆9月19日(木) 19:00～ **戦争法廃止、裏金政治を終わらせよう 9.19 日比谷集会&デモ** 会場：日比谷野外音楽堂&銀座デモ オープニング：公園で Chill 主催者&政党挨拶 ゲストスピーチ：有田芳生さん(ジャーナリスト) 銀座デモ 19:45～ 西幸門→鍛冶橋(約40分) 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会、9条改憲 NO! 全国市民アクション
- ☆9月21日(土)、28日(土)、10月19日(土)、10月26日(土) 9:30～12:30 **日本体育大学法学研究室(清水雅彦)主催 憲法市民講座** 会場：日本体育大学横浜・健志台キャンパス百年記念館(1号館3階1301教室、10月26日は4階1402教室、東急田園都市線青葉台駅から東急バ

ス日体大行き) 講師:清水雅彦(日本体育大学教授、憲法学) 費用は無料 参考文献:清水著『憲法入門』(大月書店) 問合せ:日本体育大学法学研究室(045-963-7941)

☆9月29日(日)13:30~16:00 平和をねがう講演と音楽のつどい「平和に生きる権利は国境を超える」 会場:茅ヶ崎市民文化会館小ホール 音楽:きたがわてつさん 講演:清末愛砂さん チケット:前売500円、当日700円、大学生以下無料 予約・問合せ先:chigasaki9jou@gmail.com、宮澤(0467-85-7182) 主催:九条の会・ちがさき

☆11月23日(土)~12月8日(日) 第25回総合学術研究集会:平和で豊かな地球を子や孫に伝えるためにー市民として科学者として今、私たちにできること 11月23日午後:開会式・基調講演・全体集会①、11月24日:分科会1、2、3、11月30日:分科会4、5、6、12月1日:分科会7、8、9、12月7日:分科会10、11、12、12月8日:分科会13、全体会②・閉会式。主催:実行委員会 委員長 松田正久(愛知支部)、副委員長 畑明郎(研究企画部長、滋賀支部)、事務局長 前田定孝(三重支部) 問合せ:25so-gaku@jsa.gr.jp

☆11月30日(土)午後~12月1日(日)午前 2024年地域・職場・青年革新懇全国交流会「政治を大本から変える革新懇運動の出番~さよなら自民党政治の旗を高く掲げて」 会場:京都テルサのテルサホール(全体会)と9の会議室 1日目 全体会:来賓挨拶、ミニ講演、交流会への基調報告、各革新懇からの報告 2日目 分散・分科会 職場分科会、青年交流会、ジェンダーフリー分科会、分散会 主催:全国革新懇、京都革新懇

JSA 神奈川支部幹事会・発送作業:8月は幹事会はお休みで、今回は下記のとおり9月17日です。
日時:9月16日(月・祝)14時30分から16時 14時30分から15時まで発送作業、15時から16時まで幹事会。Zoomで参加される方は、15時に <https://www.zoom.us> にアクセスし、メニュー欄の「参加」ボタンをクリックして、ミーティング ID: 858 7285 7548 パスコード: 481045 を入力して下さい。
会場:かながわ総研事務所(横浜市中区不老町1-6-9 第1HBビル5階、1階に「牡丹飯店」という中華料理屋のあるビルの5階です、JR 関内駅西口徒歩3分)
連絡先:飯岡ひろし(携帯:080-1987-0994、E-mail:jsa.kanagawa(at)gmail.com)

JSA 神奈川支部研究交流会(案)

日時:10月19日(土)13時30分から16時
会場:神奈川労働プラザ(JR石川町駅北口徒歩5分)
記念講演:山崎正勝さん(東京工業大学名誉教授)
「核兵器廃絶と科学者の責任、市民の責任」(仮題)
話題提供:惣田昱夫さん、鈴木秀顕さん、中野広さん、後藤仁敏さん、ほか
話題提供希望者は、飯岡さんあて、9月10日までに、連絡くださるようお願いします。
連絡先:飯岡ひろし(携帯:080-1987-0994、E-mail:jsa.kanagawa(at)gmail.com)

次号の原稿の募集:近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろの発送です。

送り先:後藤仁敏(E-mail:goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax:045-894-1052)